

統計教育のあり方

茨城県教育庁指導課 指導主事 赤 根 宏

◎統計教育とその問題点

「統計に関する基礎的知識・技能・態度を育成し、日常の学習や生活に活用をはかると共に、統計思想の向上を期し、科学的、合理的な人間を育成する」という統計教育の目標は、周知のように、一は統計に対する現代の要請と、一はわが国統計水準についての反省とから生まれたものであるが、まだ歴史の浅いだけに、学校教育という大きな領域の中では、実践上の問題点も多いように思われる。

第一は、「統計教育」ということばからうけるある種の異質感が、教育全体の中における位置づけを困難にしていることである。

それは、教科・道徳・特別教育活動・学校行事等、いわゆる教育の4領域でないことは勿論であるが、道徳教育・保健教育・産業教育・科学技術教育・視聴覚教育等等、各種教育の中にあつて、肩を並べられる程、まだ一般的に普及し理解されるまでにはなっていない。研究指定校の間でこそ、その価値は高く評価され、研究もされているが、一般学校への中への浸透はむしろ今後の問題で学校経営の計画案を見ても「統計教育」について特別とり出して書いているところもないようである。また、校長室に画かれている経営の構造図なるものの中にもそれらしい位置づけを見出すことはきわめて困難の現状である。

したがつて、この^{ひびき}から受けている異質感を和らげることにつとめながら統計教育の深く蔵しているねらいと使命の浸透を今後に期さなければならない。

第2に、その教育計画の形式化、固定化があげられる。県下における研究校は、昭和29年度の18校をはじめ今日まで既に42校を数えているが、その過半数のものが算数・数学科を中心とした系統案を作り、統計教育の運営にあたつてきている。こうした関係からとすると統計グラフの指導にかたよる傾向が強く、統計グラフの用語、作成法の持導等、基礎的なものに多くこだわりすぎて、計画に全体的な見通しが忘れられ、形式化してしまつたことが指摘される。むしろ、統計表そのものを的確によみとり、これを利用して、統計的な考え方になれさせることの方が、より重要であるのに、なかなかここまでの計画がたてられていない。しかも、基礎的なものに力を入れているわりには、統計になれさせたり、グラフになじませたりすることには、あまり時間がかけられな

いで徹底を欠いているように思われる。

第3は、実際指導にあつて、統計資料を濫用することから、かえつて教科本来のねらいをゆがめ、学習を低下させている場合が案外に多いことである。表やグラフの内容を十分に吟味することなく、意味のない資料をもちこんで、無理にこじつけの指導をしたり、児童生徒の能力をこえた生の資料を必要以上に作つて、折角の学習を徒らに混乱させたりしていることが多い。もつとも大切なことは、教育的立場から資料をじゆうぶんに厳選しそれを通して能率的に主体的に動いていく学習のかまえが作られることである。

すなわち、よい統計資料によつて思考体制の発展がみられ、理解の深化が期待されなければならない。

◎統計教育の内容と指導の場

第1の問題点からは、統計教育のねらいがもつと、平易に具体的なかたちで現場の実践の中に入られていくことが必要であり、第2の問題からはその内容を整理して、ねらいとの関係をはつきりさせておくことが大切である。

そこで、このねらいを一応、「教育課程の各領域において、それぞれの領域の目標が、真に理想的に達成されるようにするため、いつそう科学的な生活態度をやしなひ、生活に統計的(科学的)な考え方、処理のしかたを身につけさせるための教育である」と理解して進みたい。

前半では、教育目標の理想的な達成のために、と目標意識を旺盛にし、後半においても科学的な生活態度を養う意識を一層明瞭にし、生活に統計的な考え方、処理のしかたを身につけるための教育であるとして、ここにそのねらいの特殊性を強調したいわけである。

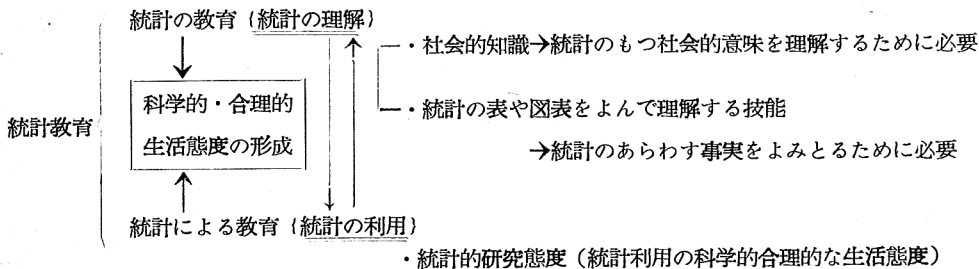
次に、統計教育の内容は次のようにまとめられる。

(次頁の表参照)

さて、指導の場は、教育課程の全領域にわたり、領域別のねらいは次のように考えられる。

(1) 教科学習の中では、各教科本来の目標をじゆうぶんに達成するために必要な統計に関する知識・技能の習得を主眼とする。

とくに、次の教科で考慮したいねらいをあげると
・社会科、資料の収集および調査方法調査結果の処理とそれを正しく理解する態度社会現象や社会問題を統計的に考え客観的、科学的に判断する能力



(表・グラフの意味の理解と、見方に重点がおかれる。)

・算数、数学科

統計に関する基礎的知識の習得

統計に関する表やグラフを作成したり読みとつたりする能力

(表・グラフの作りかたに重点)

・理科

継続的観察、実験等、自然現象または事象間のすがたを正確に記録し、その資料を統計的に処理する方法を理解する。

自然現象の研究に統計的処理法を利用したり、統計的資料を利用して、自然法則や傾向性を発見する能力

(表・グラフの比較検討に重点)

・家庭科、職業家庭科

統計利用による生活の合理化を計る態度

統計資料を利用して生活現象を解釈させる。

とくに職業科においては統計技術を習得させる。

・保健体育科

統計利用による体位の自覚と、体に応じた運動能力特性を知るとともにその成長をはかる。

健康教育に統計を利用する。

・図工科

グラフ作成と、作成に必要な色彩感の涵養、色彩感覚に関する統計的研究

(2) 特別教育活動、道徳、行事の中では、身近な問題をとりあげ、これを正しく統計の手順にしたがって解決する技能や態度を育成する。

児童生徒の生活の実態と問題点の探求 (実態の多面的把握)

地域社会の実態把握のための統計的処理法

生活現象を統計的見地より考察処理する態度・能力
合理的、自主的に統計的見地になつて問題を解決する態度

(3) 経営管理の面から学校教育の効果を測定するとともに、学校内外の実情をとらえて適切な施策を行なう。

・学校経営…合理的科学的な学校経営教職員の調査、備品の調査、学力と知能の相関の調査、学習指導技

術の研究

テスト結果の統計的処理、成績プロフィール等の作成

・学級経営…生活環境・性格・道徳性の調査

児童生徒の集団の傾向、ないしは、個々の実態を把握して指導効果をためる。

(4) 環境構成によつて統計教育の普及・宣伝につとめるとともに、児童生徒および地域の統計思想の高揚をはかる。

・環境整備

県、全国統計図表コンクール入選作品の展示

身体検査の結果の図表化とその展示、生活指導に関する遅刻調査、服装検査等の図表化と展示

校内統計図表コンクール大会

(資料の選択と、正しい書き方指導)

・統計思想の普及宣伝

父兄会 (児童生徒の生活、学習の実態を図表化して統計的処理の仕方や、見方の説明会を開く)

スライドの作成 (統計教育の歩み、統計図表の書き方、利用の仕方など)

統計教育発表会の開催と父兄の参加

◎指導における資料の位置づけ

さて、最後に第3の問題点からは、実際指導においてどんな統計資料をどんな目的のために用いるのか、つまり、資料によつてどんなことを見させていこうとするのか、その見方、考え方について、見通しをもつた配当案の作成がぜひ共必要となるだろう。教科によつて作りかたはいろいろに工夫さるべきだろうが、いま、社会科指導について一案を示せば次のようになる。

・配当案の参考例 (横書きの表とする)

小5 社会

◎単元 わが国の養蚕

◎指導内容 養蚕業の現状を把握させる

◎統計学習活動

※(1)わが国の生糸の生産と輸出高を比較して養蚕業不振の要因を考察する。

◎指導上の留意点

生産高と輸出高を比較し、減少の傾向にあることを理解させる。

(26頁下段へ)

統計図表展入選者の紹介 (上)

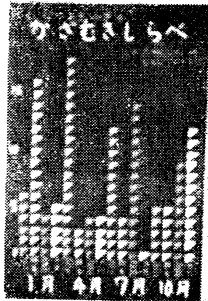
第12回 城城県統計図表展覧会入選作品

第1部 (小学校1～3年)

課題 あなたがたの学校または家庭での学習の結果をあらわす統計図表

入選一席 「かざむきしらべ」

結城市立江川北小学校 2ねん2くみ そめや えいすけ



「感想文」

「えいちゃん一とうになつたよ。」とせんせいがしらせてくれたときぼくはなんだかほんとうのようなきがしなくてぼんやりしていました。そしたらみんながあつまつてきて「よかつたね」「よかつたね」というのでなんだかうれしくてきょうしつをぐるぐるまわつてしまいました。

おそくまでのこつてかざむきをいつしようけんめいつくりました。いちばんたいへんだつたのは、いろがみをさんかくにきることでした。へんてこにきつたのであわせるのがたいへんでした。やつとできあがつたらせんせいに「きたかぜさんがびつこでかわいそうだよ」といわれてもう一どはりなおしたりしました。

ぼくのつくつたのが一とうになつてとつともうれしくてたまりません。

これからもいつしようけんめいべんきょうをしたいとおもいます。

【評】 四季の風向きを、ひがし、にし、みなみ、きたに区分して4色の三角旗によつて表現しています。

その表現方法と配色とが低学年としては極めて優秀であります。

調査の場所が記入してあればなお立派な統計図表となつたでしょう。

第2部 (小学校4～6年)

課題 あなたがたの学校または家庭での学習の結果をあらわす統計図表

入選一席 「一学期の授業した時間」

結城市立江川北小学校 6年2組 松本久子さん

山本節子さん

「感想文」

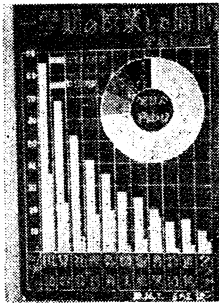
松本久子

私は、統計を、ことしこそは、書いてみたいと思いました。それで、先生が「統計図表を書いて見たい人」と言つたので、私は、書いてみたいと思つて書き始めました。初めのうちは、家のつごうで、2日ぐらいは、こられませんでした。そのつぎの日、私は学校へきました。すると、まだ私達の、作品は、始まつていませんでした。私は書いてなかつたのでよかつたと思ひました。その日から、書き始めると、自分では、私達の作品が、だんだん、よい作品に

なつてくると思つてきました。それからいく日かすぎて、しあがりました。私達の統計図表は、一番早く、おわりました。私は、「色が、はつきりしないなあ」と思つた。

統計図表のことなど、少しも思つていませんでした。すると、一しよに書いた、節ちやんが、教室に、はいつて来たので「節ちやんうれしそうじゃないの」と聞くと「私達の統計が、一等なんだよ」と言つた。その時、私はうれしくて、うれしくてなんとも、いえないくらいでした、私達の学年で、私達の作品だけが、入賞するなんて、夢にも思いませんでした。その時、ふと私は、こんなことを思いました。

「来年は、もつともつと努力をしてよい作品を、書いて見たい」と思います。



松本さん

山本さん

「感想文」

山本節子

私は、統計図表の発表があるまでは、統計図表のことなど一つも考えていませんでした。作品を出してからいく日かすぎた日先生が、「統計図表の発表が、きまりました。」といった時、ふいにそのことが思いだされました。私達が書いた作品は、何等になつたのだろうか、ちよつと心配になりました。

先生が、「この組で一等に入つた組があります。」といった時、みんなは、「だれだい、だれだい。」などと口ぐちにいつていた。先生が「節子さんとう子さんで書いた作品が一等に入つた。」といった。それから三等に入つた組や佳作に入つた組などをいつた。

私達は長い休み中に5～6日ぐらい学校にいつていつしようけんめい私とう子ちやんで書いたことなどが、思つた。暑いのもわずれながら書いていたり、あきれてしまつたことなどもあつた。……私達の書いた作品が一等になつた。この時は、もうむねがいつばいで、書くことの、できないくらいうれしかつた。

【評】 すぐれた資料（学級日誌）をオードソックスな表現技術によつて堅実な図表として纏めた作品であります。構図・色彩とも大へんすばらしいです。欠けた時間の内訳をパイ図表としてあらわし反省させられる点などこの図表の成功を示すものでありましょう。

第3部 中学校

課題 あなたがたの住んでいる市町村または学校生活の実情を示す統計図表

入選一席 「結城の紬」（全国展にて佳作の部に入選）

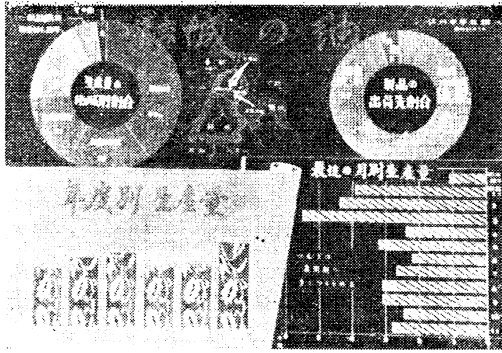
江川中学校 3年2組 小谷野成子さん

染谷昌代さん

「感想文」

私たちは、クラスで選ばれて図表を書くことになりました。私たちは「去年も書いたからほかの人の方がいい。」と申しましたが、みんなは「去年も県で入選したのだから、経験を生かして…」なんてことで、決まつてしまいました。昨年は県までの区域の資料が使えましたが、今年は市町村の区域に範囲が限定されてしまつたので、何について書くかということでもず頭を痛めました。市町村の特色がよくあらわれているものといえはやはり特産の結城紬です。私たちは、結城紬をしらべて図表にしてみようと思ひました。

夏休みに入るとすぐ資料集めにとりかかりましたが、地区別生産の割合や出荷先の割合などはすぐわかりました



小谷野さん

染谷さん

年度別生産量や生産額，月別生産量などは，中々教えてもらえませんでした。特に年度別生産量と年度別生産額を対比させることによつて，高級品の売れた年と並級品の多く出た年などが，図表に表現出来ると思つていましたが，生産額はとうとう教えてもらうことが出来ませんでした。また，各地区農家の繻生産に従事している戸数も調べましたが，これも徒勞に終わってしまいました。そんなわけで最初に画いていた図表の構図を資料の関係で，改めなければならなくなつてしまいました。途中で投げ出したいほど，打ちのめされた気持ちになつてしまいました。先生が知り合いの人や繻組合などから，ポスターやしおり，繻のはしぎれ，図案などを借りて来て下さいましたので，それらを参考にしながら，できるだけ図表に結城繻の渋い味を出し，資料の不備を補うように心掛けました。

先生方がいろいろ批評してください，「少し暗すぎる，今年は明るくてしかもおちついた色彩がいいのだ。」といわれましたが，繻の味を出そうとするとどうしても渋い，暗い感じになつてしまいます。そこでいくらかでもそれをカバーするために，数字や文字を繻のムードを犯さない程度の色彩にして全体としていくらかでも，明るくなるように気をつけました。

とにかく完成した時は，よく出来たという感じがなく，満足な出来ではないけれども，終つてよかつたという気持でした。

それが県で一位になつたという知らせを聞き，どうしても本当のような気がしませんでした。今でも中々その実感がわきません。私たちが一位になれたのは本当に運がよかつたのでしょう。

3年間，統計教育に全校がとりくみ，毎年統計図表展に出品しているのも，先生方や先輩たちの御指導のたまものだと思います。

新聞などに統計図表などが出ていると，きつと目を通します。また，図表に適した文字などはすぐ目につきます。

これからの社会では統計などによる，科学的な資料にもとずいたものの見方，考え方などが，より大切になつてくると思います。私たちが，これを機会になお一層統計に関心をもつて生活して行きたいと思つています。

【評】 郷土の誇る結城繻の風雅さが全体によくあらわれ，その繊細な絵画的技法は素晴らしいものであります。結城市を示す地図の表現にもう一工夫（製品或いは原料などの動きを示す矢印の中によつて数量の大小をあらわすよう）欲しかつたと思つています。全体としてやや暗い感じがしますが優雅な統計図表であります。

(23頁より)

◎表・グラフ

※(2)わが国の生糸と輸出(折れ線グラフ)

◎資料 国勢図会

表中※(1)と※(2)との関係は，實際指導の展開案には，次のような要領でとりあげられることになる。

・指導案，展開の例

・前略

・本時の目標

生糸の輸出をグラフで調べ，養蚕業不振のようすを具体的に理解させる。

◎おわりに

指導における資料の位置づけが，計画的に行われ，資料によつて何を，どう考えさせていくかについて，はつきりしたねらいをもつて指導しているところは，学習者のかまも真剣で，生き活きた雰囲気教室にただよつてい。つねに問題と取り組みながら，統計的手法によつて，生産的，発展的な思考の学習が進められていけ

・展開

学 習 活 動	指導上の留意点	資 料
○導入		
○折れ線グラフを見ながら養蚕業の推移を調べる	○生産量・輸出量が急激に減少している年は，戦争が原因していることに気づかせる。	わが国の生糸生産と輸出についての折れ線グラフ
○生糸の生産額と輸出の現状を比較しながら，養蚕業について話し合う。	○戦後，生産量と輸出量の開きが大きくなつていくことに気づかせ，化学せんの進出が大きな原因になつていくことを知らせる。	
○養蚕業の将来について話しあう		
○まとめ		

る教室，それは最もよく統計教育を実践している場である。

県民個人支出

分配県民所得として、各生産要素に分配された所得はついで支出されて、個人の生活のかための消費財の購入に向けられるか、あるいは貯蓄または投資（在庫の増加を含む）にあてられます。

貯蓄にあてられた部分も、結局は投資に向けられるわけでありますから、前号で説明しましたように、分配された所得は、最終生産物としての消費財ないし生産財に支出されるわけであります。所得を、この最終生産物に支出される面でもらえたものが、県民支出または支出県民所得とよばれるものであります。したがって、県民支出または支出県民所得は分配県民所得と等しく、同時にまた生産県民所得とも等しいということになります。しかし、県民所得と支出バランスで注意しなければならない点は、いままで説明してきたように、分配県民所得と県民支出はほんらいは等しい額なのですが、実際にこれを計算してみると必ずしも等しい額にはなりません。

つまり、生産県民所得や分配県民所得は、要素費用で評価されますが、企業の生産要素に対する支払のうちには、企業の売上取入によつて行なわれないで、政府や県など企業に対して交付した補助金などによつて行なわれるものがあります。そこで、要素費用ではかられた県民所得には、これらの補助金が含まれているわけでありますが、県民支出には補助金は含まれません。

というのは、県民支出として支出されるのは、最終生産物に対してでありますから、この最終生産物の価値は、市場で世帯や企業などに販売される価格、すなわち市場価格で評価されたものでありますから、これには補助金は含まれないで、その代り間接税が含まれることになるのであります。そこで、生産県民所得や分配県民所得が要素費用で評価されるといわれているのに対し、県民支出または支出県民所得は市場価格で評価されるといわれています。

つぎに問題になる点は、減価償却費の取扱いであります。県民所得は、純生産物の価値でありますから、減価償却費はいうまでもなく物的経費として差引いてありますが、通常県民総支出をあらわすときには、これを差引かないままに年間に生産された機械や設備などの固定資産から減価償却にあてられる部分を差引かないで、その全部を最終生産物として計上しています。どうしてこういうことをするのでしょうか。

それは、県民所得推計の観点から正確に減価償却費を計算することはいろいろ困難があります。ことに、インフレーション期などのように、固定資産の価値が値上り

しているにもかかわらず、企業が正当に償却していない場合などがありますため、これらの事情を考慮に入れた減価償却費の測定は非常に困難になってくるからであります。

また、年間における固定資産の価値の一部は、年間における生産活動によつて生産された生産物（原材料や燃料などのそのまま最終生産物に含まれてしまうものを除いて）の額に含まれてあらわれてくるものであり、同時にまたそれは、その年間に生産されて消費や総投資として利用することのできる生産物の総額をあらわすものとなるからであります。

そこで、減価償却の部分を含んだ県民総支出に対し、減価償却の部分差引いた県民純支出をたんに県民支出とよんでおります。そして、県民個人の消費支出や個人税、個人貯蓄として、実際にどのように処分されたかということを示したものが県民個人支出とよばれるものであります。その具体的なしくみと推計方法についてふれてみましょう。

県民個人支出の内訳を大別しますと第3表のように

- (1) 個人消費支出
- (2) 個人税および租外負担
- (3) 県外への純送金
- (4) 個人貯蓄

となりますが、これらの項目について簡単に説明してみましょう。

(1) 個人消費支出

これは、県民が日常の消費生活をいとむために、消費用の財貨やサービスに支出した金額をしめすものであります。その内訳は飲食費、被服費、光熱費、住居費、雑費などの通常の家計費の費目からなつております。

この支出の推計は、生産統計や配給統計などを用いて企業などが生産物を個人に売上げる面から間接に推計するいわゆる間接方法と、家計調査や世帯数を用いて個人が生産物を購入する面から直接に推計するいわゆる直接方法の二つがありますが、本県の県民所得推計では後者の方法によつております。

(2) 個人税および租外負担

これは、個人の所得ならびに財産にかけられたもので、税法上事業の経費として控除されない租税（国税および地方税）と、個人が国や地方公共団体に支払う各種使用料、手数料、罰金および没収金などの税外負担からなつております。

(第3表)

県民個人所得とその処分

	昭和33年度		昭和34年度		前年対比
	所得実額	構成比	所得実額	構成比	
1 総 額	千円 148,963,292	% 100	千円 167,459,846	% 100.0	% 112.4
2 個人消費支出	122,077,827	(82.0)	132,185,704	(79.0)	114.5
(1) 飲食費	54,057,120	36.3	57,636,456	34.4	106.6
(2) 被服費	12,932,443	8.7	13,655,048	8.2	105.6
(3) 光熱費	6,486,121	4.4	6,807,964	4.1	105.0
(4) 住居費	14,928,450	10.0	17,559,599	10.5	117.6
(5) 雑費	33,673,693	22.6	36,526,639	21.8	108.6
3 個人税および税外負担	5,270,899	(3.5)	5,548,225	(3.3)	105.2
4 県外への純送金	—	(—)	(—)	—	—
5 個人貯蓄	21,614,566	(14.5)	29,725,917	(17.7)	137.5
6 直接推計による個人貯蓄	22,818,062	(15.3)	29,201,246	(17.4)	128.0
(1) 個人業主の自己投資	8,103,500	5.4	10,499,097	6.3	129.6
(2) 預貯金増加	13,810,000	9.3	17,476,000	10.4	126.5
(3) 直接証券投資	511,434	0.3	849,860	0.5	166.2
(4) 住宅純建設	2,052,358	1.4	2,751,553	1.6	133.6
(5) 控除借入金純増	△ 1,659,225	△ 1.1	△ 2,375,264	△ 1.4	143.2
7 誤差と脱漏 (5~6)	1,203,496	(0.8)	524,671	(0.3)	43.6
8 個人可処分所得 (1~3)	143,692,393	(96.5)	161,911,621	(97.7)	112.7

この推計は、国税局や県などからでている税務統計書や決算書等により算出されます。

(3) 県外への純送金

これは県内外居住者間の授受差額が個人支出の項目として計上されるのですが、本県では、資料の関係で推計できなかつたものです。

(4) 個人貯蓄

これは、一般にいわれる預貯金のほかに、個人企業から投資にむけられる部分（生産施設の拡充、在庫品増加に見合う部分）なども含まれます。

個人貯蓄は金融統計その他から算出されます。

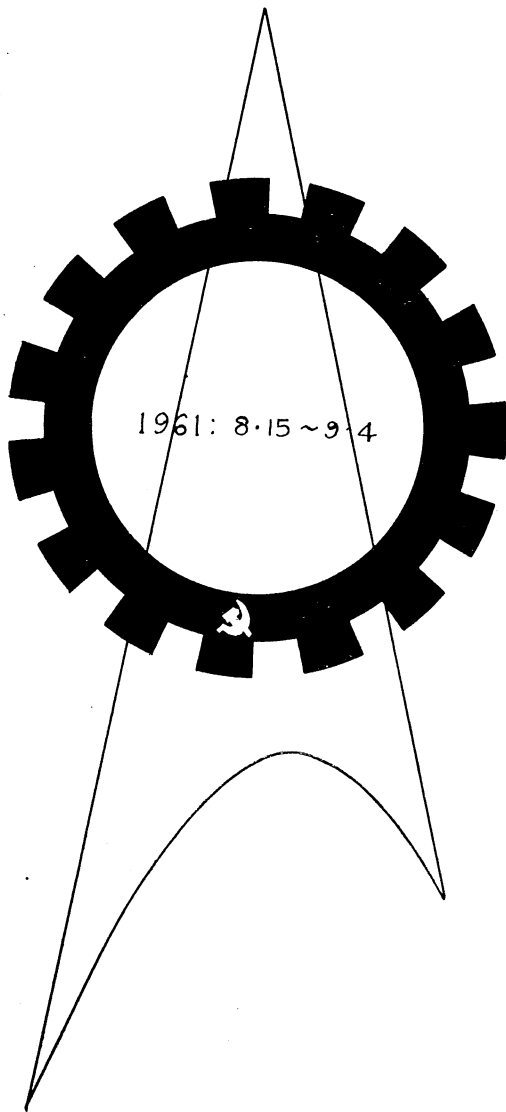
ここで、第3表をみますと、個人消費支出が昭和33年

82%で、34年は79%とやや減少し、個人貯蓄についてみますと33年14.5%で34年は17.7%と3.7%の伸びを示しておりますが、いづれにしても、個人消費支出が最も多くの構成比であることにお気づきでしょう。このことは最終生産物としての県民総生産額の大半が、消費用の財貨およびサービスとして、県民の日常生活にあてられていることをしめすものであります。でありますから、個人貯蓄の構成比が、33年より34年が多くなつたということは、それだけ個人消費が節約され、企業に投資されて次年度における生産規模の拡大をまねくことになるわけでありませう。

(横須賀)

東京ソ連商工業見本市から

8月15日から9月4日まで、東京国際貿易センターで開かれたソヴィエト商工業見本市をその最終日に見学して参りました。都バスが会場まで案内してくれましたが下車して先ず意外に思いましたのは、広いメインストリートを閉鎖して警察官が点々と配置され、その中央には警視庁広報車なる装甲車が、デンと居すわつてゐることでありました。その上赤旗が会場前に林立するさまは、ちよつとしたエトランゼ風景であり、物々しい警戒振り



は会場内に入つて一層の緊張感を与え、数メートル間隔に警官が立ち並び、レーニンの写真像の前などは8人の制服警官に私服2人が居並び、消防庁の腕章をつけた警備員が携帯無線機をもつて場内をパトロールして参りました。

ソヴィエトという先ず私どもは優れたロケットや、衛星船の打上げをおこなつて人類のもつ宇宙への夢を実現した大きい業績を思い出します。会場の入口に近い位置には、やはり人口衛星船の模型が展示され人々の注目を浴びておりました。しかし新聞やその他の雑誌にみられたものと同じようなもので、特別目新しい感じはなかつたようです。これに比べレーニンの写真像の巨大さには一驚しました。貿易センター2号館の天井に届くほどの高さのものが、初めに申しましたように警察官に取り囲まれて飾られてあり、偉大なる人物が、巨大な写真像として、大国ソヴィエトを誇示する如く展示されておりました。その偉大なる人物ヴェ・イ・レーニンが力強くいつています。「われわれにとつて何よりも大切なのは平和の維持である」と、従つて現在のソヴィエトの指導者たちは、いずれもレーニンの教えのとおり平和の維持に狂奔していることでありましょう、木の葉のような小さいコンプ漁船など追い廻すのは、何かの間違いなのでしょうか。

また見本市開催についてエヌ・エス・フルシチョフ首相が、そのメツセーザに、「日本の皆さん、隣邦諸国民に対する平和と友好への皆さんの願いは、ソ連国民の願いと一致しています。日本の皆さんにあいさつをおくり御幸福を祈ります」と言つておられます。

「ソ連の人口は毎年350万人以上増加している」と会場で説明しています、国際統計要覧によりますと、1939年のソ連邦の人口は、1億7,046万7千人で、1959年には2億0882万7千人となり、過去20年間における年平均の増加は、191万8千人づつであつたこととなります。然し会場での説明は、350万人以上毎年増加しているというのですから、これは、最近の年平均増加数をいつているのでしよう、いずれにしろソ連邦に関する限り最新の統計値が入手できないのは残念であります。

また「革命前せいぜい32才であつたソ連国民の平均寿命は68才までになつた」そうです。日本では、1959年4月から1960年3月までの調査では、男64.94才、女69.65才であります、また琉球では(調査年1955~1957)男65.80才、女72.00才であり、アメリカでは(調査年1957)男66.30才、女72.50才となつておられます。またアフリカのコン

ゴでは（調査年1950～1952）男37.64才，女40.00才であり，インドでは（調査年1941～1950）男32.45才，女31.66才であります。一般に文化の進んだ社会など平均寿命は高く，また調査年の新しい程平均寿命が延びております。革命前32才であつた平均寿命が現在68才まで延びたという，革命によつて平均寿命が延びたような印象を受けますが，それでは革命のなかつた国々ではどうだつたでしょうか，上述のとおりやはり，ソヴィエト程度或いはそれ以上延びて参りました，特にオランダ，ノルウェー，オーストラリア，ニューージーランドなどは70才を上廻つています。しかし平均寿命が延びるということは社会制度なかならず医療設備が充実し，死亡率が低下してきたことを物語るものであります。従つて「世界の医師のうち，4人に1人はソ連人である」といつていることも頷けるものであります。

「ソヴィエトは全世界の森林材生産量の約3分の1を産出する」と説明しております，その国土の広大なことからもつともなことでしよう。白樺，とど松，やまならし，ポプラ，榦などの森林を，カナダなどとともに無忌蔵にかかえているのでしようから，要覧から立木伐採量を比較すると，1956年全世界の15億7,902万立方米に対し，ソヴィエトは3億4,120万立方米で世界の21.7%，1957年には，全世界の16億3,120万立方米に対しソヴィエトと3億6,140万立方米でその22.1%，1958年には全世界の16億3,180万立方米に対してソヴィエトの3億7,600万立方米となり，世界の23.0%を生産しております。ここで注目すべきは全世界の立木伐採量に対するソヴィエトの割合が逐次増加していることであり，世界の約3分の1を生産するといつていることは，言貫し得ることでありましよう。

工作機械などもたくさん展示されておりましたが，各機械とも，メカニズムとかシャープさといつたものよりも，重厚さを感じさせられるものばかりでした，例えばスポーツ用品の中にライフルがありました，50発や100発の連続射撃では銃身が全然熱してこないだろうと思われる程重量感があり，きくところによりますと，ソ連製自動小銃には1分間に900発もの発射速度をもつ優秀な機関部をもつ銃もあるそうですが，そのようなのは勿論スポーツ用ではないものでしよう。外見の純重さと，それに比較して内容の優秀さには意外でした。中に一挺真白い銃のあつたのは，いかにも雪国ソ連の銃らしい印象を受けました。

展示品の一つに世界最初の原子力砕氷船レーニン号の模型がありました。この砕氷船は，無氷海上の航海速度は18ノット，厚さ2.4メートルの氷海上の砕氷速度は2ノットで，原子炉3基を装備し，約1年間の持続航海の出来る船だそうですが，原子力をこのような平和利用にのみ転用するなら人類にとつても，大変な功績であると思

います。それこそレーニンのいう平和の維持のための立派な努力であります。

ソヴィエト政府は，見本市のキャンペーンとして次のようなことをいつております。

「ヒロシマをくり返ささせるな，ソヴィエト政府は，核実験を即時永久に停止することを主張してきたし，主張している。」

「平和共存は，完全な平等と，相互利益にもとづく経済および文化協力の発展を予定している。」

「戦争は国際紛争を解決する手段にはなり得ない，なつてはならない。」

またユー・リーガガーリン少佐も，次のようなことをいつております。

「人工衛星船で地球のまわりを飛んで，私はこの地球がすばらしく美しいことを知つた。人びとよ！この美しさを守りつづけ，さらに美しいものにしよう。これを破壊することがあつてはならない。」

全くお話のとおりであります。平和を守り，共存を願うことはまことにおつしやるとおりであります。しかしながら核爆発実験の禁を自らの行為によつて破り50メガトンや100メガトンの水爆を云々するのは，論理的にもなり立たないと思います。言つていることと，行つていることが，あまりにも矛盾していると思います。エトロフやクナシリやハボマイやシコタンを日本から取り上げることが完全な平等なのでしようか，オホーツク海の公海上の漁獲区域を年々圧縮することが，相互の利益なのでしようか。我が国の大半を占める低所得階層は，大国ソヴィエトの言動に大きい影響を受けながら，その日その日の暮らしをしております。人口密度からいつても，ソ連の9.4人に対し，その26.6倍にあたる250.9人もひしめいています。

ガガーリン少佐のいう美しいこの世界が，決してソヴィエトばかりの世界ではないはずです。見本市をみて，ソヴィエト政府は，レーニンのいう世界の平和のための努力を，実行によつて示すべきだと，強く感じさせられると同時に，平和礼讃のキャンペーンがうつろに聞えました。

（一本杉 清）

